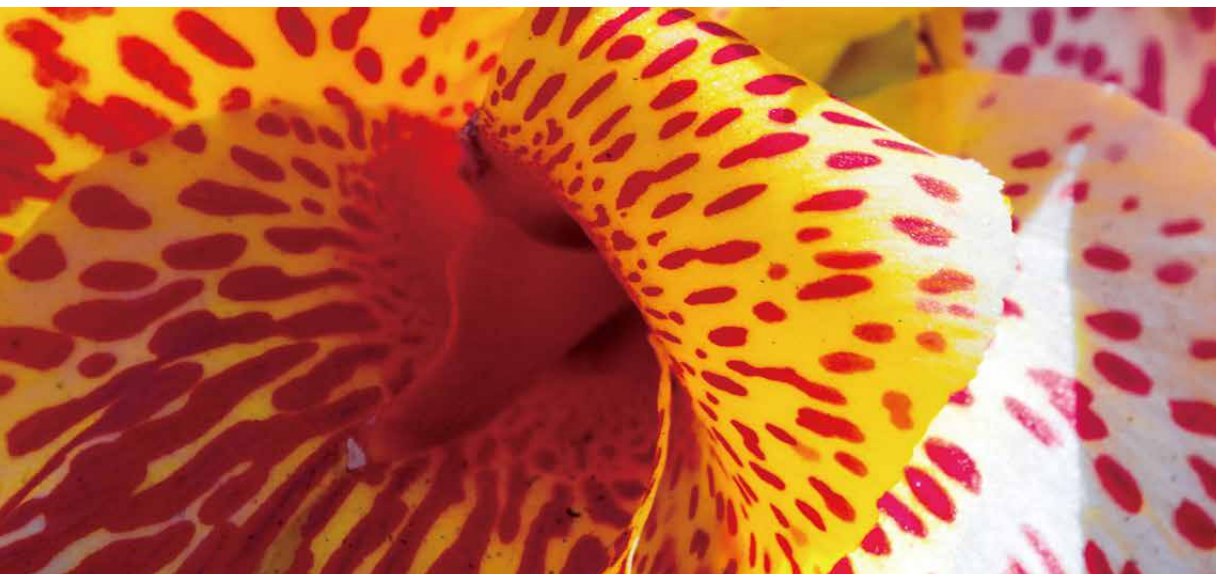


## 株主のみなさまへ

第128期 報告書(中間) 2025年1月1日～6月30日



### 目 次

- |   |   |                                   |    |
|---|---|-----------------------------------|----|
| ● 株主のみなさまへ<br>株主還元方針、連結業績ハイライト ……           | 2 | ● セグメント別業績の概要 ……                  | 7  |
| ● 特集1 長期経営計画「DIC Vision 2030」進捗状況 ……        | 4 | ● 連結財務諸表等 ……                      | 8  |
| ● 特集2 DICと国際文化会館がアート・<br>建築分野を起点とする協業に合意 …… | 5 | ● 企業CM「AI DIC岡里帆」<br>新シリーズを放送中 …… | 9  |
| ● セグメント別業績 ……                               | 6 | ● 口座振込による配当金受取のご案内 ……             | 10 |
|   |   | ● 会社概要・株主メモ ……                    | 11 |



株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。新たに株主となられた皆様には、心より御礼申し上げますとともに、末永くご支援の程お願い申し上げます。

今上期においては、米国の関税措置に端を発した景気先行きに対する警戒感の強まりにより、各地域で不安定な事業環境が続きました。このような中、当社グループは年初に掲げたとおり、不確実性に対して迅速な対応を講じつつ、絶え間なく事業の効率を追求し、最適な資源配分を意識しながら着実に成果を上げることには注力してまいりました。

こうした取り組みの結果、業績面では前年同期比で増益となり、特にここ数年、厳しい状況にあった顔料製品を中心としたカラー&ディスプレイセグメントの回復軌道がより鮮明になりました。

2025年6月30日をもちまして、当社第128期における中間連結会計期間までの営業が終了しましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

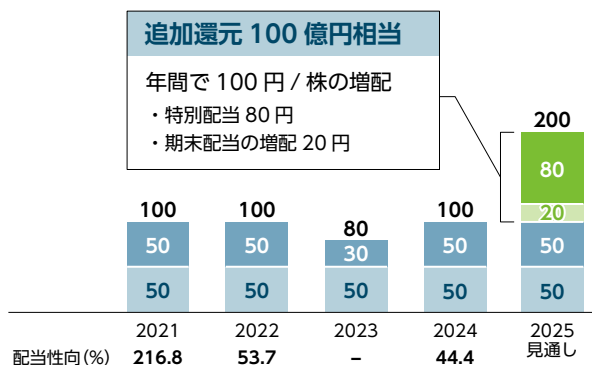
## 株主還元の強化

当社は2024年2月に発表したキャッシュ・アロケーション方針\*に基づき、資産圧縮に取り組んでいます。これにより追加的なキャッシュの創出が計画通り進んでいることから、総合的に判断した結果、今期において、追加株主還元として1株当たり100円の期末配当を増配によって実施する予定です。なお、100円の増配のうち80円を特別配当とし、20円を普通配当とします。これにより、2025年12月期の1株当たり期末配当は150円となり、中間配当と合わせた年間配当金額は1株当たり200円を見込んでいます。

\* 詳しくは、長期経営計画「DIC Vision 2030」をご覧ください。  
[https://www.dic-global.com/pdf/ir/management/plan/Revision\\_%20DIC\\_Vision\\_2030\\_ja.pdf](https://www.dic-global.com/pdf/ir/management/plan/Revision_%20DIC_Vision_2030_ja.pdf)

## 配当金の推移

■ 中間（円） ■ 期末（円）



## 連結業績のご報告

当中間連結会計期間における当社グループの売上高は前年同期比2.9%減の5,232億円でした。各セグメントの出荷動向に関しては、パッケージング&グラフィックでは、パッケージ用や出版・新聞用インキの出荷が減少した一方で、ジェットインキが堅調な需要に支えられて増加傾向となりました。カラー&ディスプレイでは塗料用顔料やプラスチック用顔料が、関税措置への懸念による一時的な買い控えもあり出荷が減少しましたが、高付加価値製品であるカラーフィルタ用顔料は前年並みの水準となりました。ファンクショナルプロダクツではエレクトロニクスやモビリティ関連の高付加価値製品を中心に概ね堅調に推移しました。

営業利益は、前年同期比22.9%増の270億円でした。カラー&ディスプレイにおいて、収益性改善のための価格改定の実施と以前から進めてきた欧米顔料事業の構造改革によるコスト削減効果の発現により、赤字であった海外事業が黒字に転換したことが増益の主要因となりました。

## 通期の連結業績見通しと配当金

通期見通しにつきましては、売上高は米国の関税措置の影響により出荷が減少することから減収となる見通しですが、営業利益は高付加価値製品の拡販、適切な価格対応、コストの削減などに鋭意取り組むことで増益を見込んでいます。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、2025年2月12日に、100億円程度の追加株主還元を実施予定であることを発表しました。

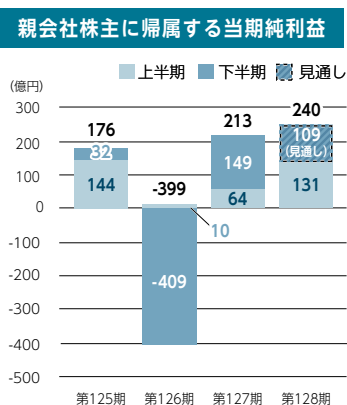
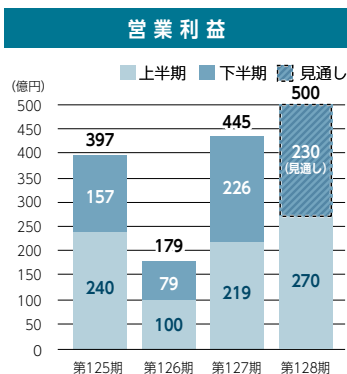
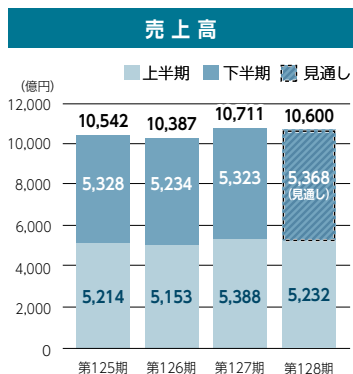
この方針を踏まえて総合的に判断した結果、当期の配当につきましては、中間配当は予定どおり1株当たり50円を実施のうえ、期末配当は、当初計画していた1株当たり50円に対し、上記追加株主還元を1株当たり100円の増配によって実施することで、1株あたり150円とすることを予定しております。なお、100円の増配のうち80円を特別配当とし、20円を普通配当とする予定です。株主の皆様には何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役  
社長執行役員

池田尚志

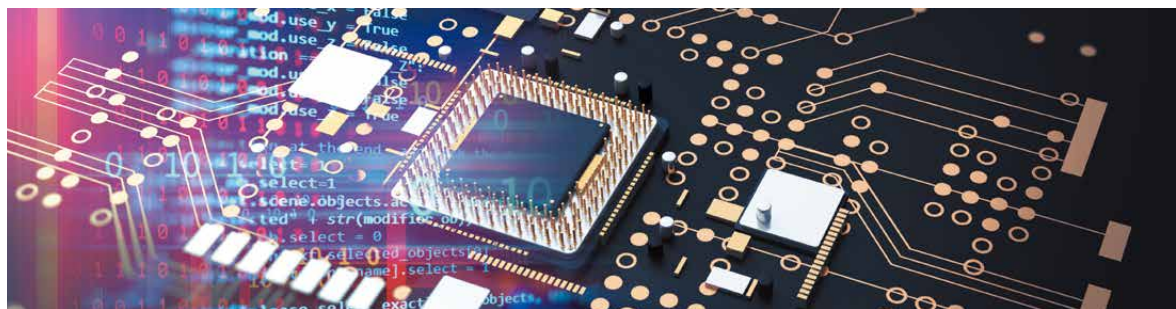
## 連結業績ハイライト



# 次世代・成長事業の早期創出に向けた取り組み

当社は、長期経営計画「DIC Vision 2030」において、その強みを活かして貢献できる5つの重点事業領域を定め、特にデジタル化により進化・発展する暮らしにおいて、化学的ソリューションを通じた新しい生活体験を提供することを目的とした「スマートリビング領域」に経営資源を集中しています。

## 千葉工場にエポキシ樹脂プラントを新設することを決定



当社は、今後成長が見込まれる半導体実装分野や先端電子部品分野を中心に、当社ならではの「ケミトロニクス」ソリューションを提供することを目指しています。こうした方針の下、この度、当社の千葉工場（千葉県市原市）にエポキシ樹脂プラントを新設することを決定しました。なお、今般の投資決定は、同投資計画が経済安全保障推進法に基づく「供給確保計画」として経済産業省から認定されたことを踏まえたものであり、最大助成額30億円の支援を受ける予定です。

エポキシ樹脂は反応性の高い熱硬化型の樹脂で、優れた成形性・耐熱性・電気絶縁性・接着性などの特性があり、幅広い産業で活用されています。当社は1968年からエポキシ樹脂の製造・販売を開始し、原料から製品まで一貫して分子設計する開発体制と、長年培ってきた量産化ノウハウを強みに、エレクトロニクス分野において最先端の樹脂を提供してきました。なかでも、通信技術の高速大容量化によって、高耐熱化・寸法安定性の向上・伝送損失の低減が求められる半導体用途において、当社のエポキシ樹脂は不可欠な素材となっており、半導体需要の拡大に伴い安定供給の重要性がますます高まっています。

一方で、当社の千葉工場におけるエポキシ樹脂の既存生産プラントだけでは将来的な需要増加に対して供給能力が不足するという課題を抱えています。この課題を踏まえ、当社は同工場の既存プラントの隣接地に新規プラントを建設することで、エポキシ樹脂の中長期的な生産能力の確保や新規生産プロセスの導入による世界トップレベルの品質や生産性向上を実現し、競争力の強化を図っていきます。

こうした中、当社における半導体材料としてのエポキシ樹脂の安定供給を目標とした本投資計画が、経済安全保障推進法に基づく「供給確保計画」として認定されました。当社は、この度の認定を踏まえ、国内の半導体安定供給体制の構築に尽力するとともに、エレクトロニクス分野における科学技術の進歩に貢献してまいります。

### 供給確保計画の概要

生産場所	千葉工場
供給開始	2029年7月
生産能力	半導体用エポキシ樹脂の生産能力を約59%増強
最大助成額	30億円



## 特集2 DICと国際文化会館がアート・建築分野を起点とする協業に合意

当社は、2025年3月12日付のプレスリリースにおいてご報告しましたとおり、公益財団法人国際文化会館（理事長：近藤正晃ジェームス、以下「国際文化会館」）と、アート・建築分野を起点とする協業に合意しました。

当社はDIC川村記念美術館\*における「作品」「建築」「自然」が融合する体験の継承と、企業・社会へのインパクトを最大化することができる都心の立地を探していました。国際文化会館は民間外交・国際文化交流のパイオニアとして、アート・建築分野での発信のさらなる強化を目指し、世界的なアートコレクションを擁する協働パートナーを求めていました。今回、両者の理念と戦略的目標が合致したことにより、本協業が実現しました。（具体的な協業の内容は以下の通りです。）

\* DIC川村記念美術館は、2025年3月31日をもちまして千葉県・佐倉市での運営を終了いたしました。詳細につきましては以下URLをご覧ください。  
<https://kawamura-museum.dic.co.jp/news/03-close/>

### ■ 協業の内容

- ・当社と国際文化会館は、アート・建築分野を起点とする協業に合意しました。
- ・当社は、卓越した戦後アメリカ美術を中心とする20世紀美術品を所蔵しており、そのコレクションを中核に国際文化会館に移転します。
- ・当社は、所蔵するマーク・ロスコの<シーグラム壁画>7点すべてを、国際文化会館が建設する新西館へ移設します。国際文化会館は、同館に建築ユニットSANAAが設計する常設展示室「ロスコ・ルーム」を開設します。
- ・当社と国際文化会館は、新設する「ロスコ・ルーム」を共同運営し、アート・建築の力によって民間外交・国際文化交流を推進する公益プログラムの充実を図ります。
- ・上記の公益プログラムを充実させる上で、アート・建築界を代表する有識者・アドバイザーの諮問・協力を得ます。
- ・当社と国際文化会館はアート・建築分野を起点に幅広い連携を追求していきます。

都心にありながら緑豊かな環境に恵まれ、アートや文化、歴史が調和する特別な空間である敷地を活かし、当社と国際文化会館は新たな芸術・文化的体験を創出していきます。企業である当社と公益財団法人である国際文化会館が連携することにより、アートが、ビジネスと公益の双方にインパクトを生み出す新たな協業の形を国際社会に示し、貢献をしていきます。



国際文化会館本館（東京都港区）の外観

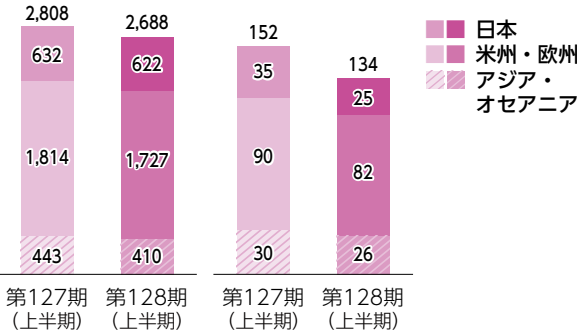
# セグメント別業績

(単位：億円)

セグメント	売上高				営業利益			
	前中間 連結会計 期間	当中間 連結会計 期間	前年同期比		前中間 連結会計 期間	当中間 連結会計 期間	前年同期比	
				現地通貨 ベース				現地通貨 ベース
パッケージング& グラフィック	2,808	2,688	△ 4.3%	△ 1.1%	152	134	△ 11.9%	△ 5.2%
カラー & ディスプレイ	1,343	1,320	△ 1.7%	+ 0.5%	4	57	13.1倍	8.0倍
ファンクショナル プロダクツ	1,447	1,430	△ 1.2%	△ 0.4%	108	109	+ 0.8%	+ 1.3%
その他、全社・消去	△ 209	△ 205	—	—	△ 45	△ 30	—	—
計	5,388	5,232	△ 2.9%	△ 0.5%	219	270	+ 22.9%	+ 27.9%

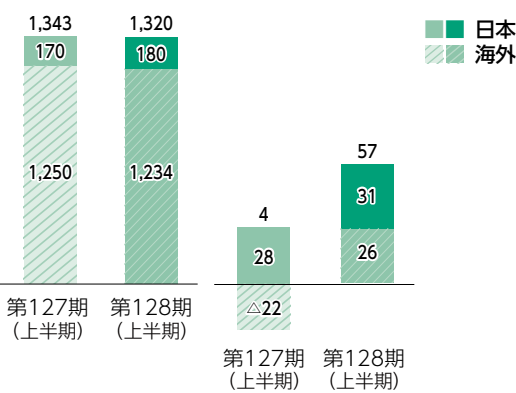
## パッケージング&グラフィック

● 売上高 (億円) ● 営業利益 (億円)



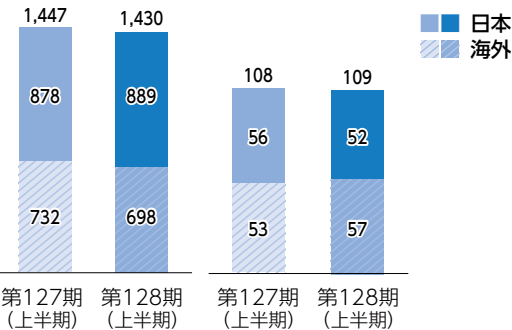
## カラー&ディスプレイ

● 売上高 (億円) ● 営業利益 (億円)



## ファンクショナルプロダクツ

● 売上高 (億円) ● 営業利益 (億円)



※グラフの数値にはセグメント内の地域間取引が含まれており、合計金額は上記の業績数値と必ずしも一致しません。

※2025年度より「パッケージング&グラフィック」、「ファンクショナルプロダクツ」及び「その他、全社・消去」のセグメント間で、売上高と営業利益の一部についてセグメント区分を変更します。これに伴い、前中間連結会計期間についても、変更後の数値に組み替えて記載しています。

# セグメント別業績の概要

## パッケージング & グラフィック

## Packaging & Graphic

上半期売上高

2,688億円

前年同期比  $\Delta 4.3\%$

上半期営業利益

134億円

前年同期比  $\Delta 11.9\%$



### 【売上高増減要因】

食品包装を主用途とするパッケージ用インキは、日本では物価高に伴う消費の落ち込みによって、米州・欧州では米国の関税政策に伴うインフレ懸念等によって、それぞれ出荷が減少しましたが、引き続き価格対応に努めた結果、いずれも増収となりました。一方、アジア他では市況の落ち込みと価格競争により出荷と価格の両面で厳しい環境にあるなか、顧客開拓による拡販が進んだ中国では増収となったものの、それ以外の地域では減収となりました。商業印刷や新聞を主用途とする出版用インキは、各地域で出版需要の減少が見られるなか、特に米州・欧州で出荷が大きく減少した結果、減収となりました。デジタル印刷に使用されるジェットインキは、引き続き堅調に推移し増収となりました。食品トレーなどで使用されるポリスチレンは、顧客の買い控えにより出荷が伸び悩み、減収となりました。

### 【営業利益増減要因】

日本ではパッケージ用インキと出版用インキにおいて価格対応を進めましたが、コスト増加分を吸収できず、減益となりました。また、海外では、売上が落ち込んだアジア他で減益となり、米州・欧州でも、引き続き安定した供給やサービスを通じて販売価格の維持に努めましたが、出荷減に加え、新興国通貨安による為替換算影響を受けたことなどから、減益となりました。なお、米州・欧州は現地通貨ベースでは1.6%の増益でした。

## カラー & ディスプレイ

## Color & Display

上半期売上高

1,320億円

前年同期比  $\Delta 1.7\%$

上半期営業利益

57億円

前年同期比 13.1倍



### 【売上高増減要因】

塗料用顔料とプラスチック用顔料は、欧州や米国を中心に米国の関税政策に伴うインフレ懸念等を背景とした一時的な買い控えもあり、出荷が減少したものの、価格改定に努めた結果、増収となりました。高付加価値製品については、ディスプレイ用途であるカラーフィルタ用顔料は、パネルメーカーの稼働状況にやや落ち込みが見られ、出荷が前年並みにとどまりましたが、価格対応により増収となりました。化粧品用顔料は、主な顧客である欧米の化粧品メーカーにおける需要停滞などにより、出荷が減少したことで減収となりました。スペシャリティ用顔料は、建築向けの出荷が減速したものの、在庫調整が一巡した農業向けが引き続き回復基調となった結果、増収となりました。顔料製品以外では、液晶材料事業からの撤退により、液晶材料製品の売上高が減少したことが減収要因となりました。

### 【営業利益増減要因】

収益性改善のための価格改定の実施と以前から進めてきた欧米顔料事業の構造改革によるコスト削減効果の発現により、赤字であった海外事業が黒字に転換しました。

## ファンクショナルプロダクツ

## Functional Products

上半期売上高

1,430億円

前年同期比  $\Delta 1.2\%$

上半期営業利益

109億円

前年同期比 +0.8%



### 【売上高増減要因】

デジタル分野については、半導体などのエレクトロニクス材料を主用途とするエポキシ樹脂は、半導体需要にけん引される形で全般的に出荷が堅調に推移した結果、増収となりました。スマートフォンなどのモバイル機器を主用途とする工業用テープは、採用の拡大など着実に需要を取り込んだことで、増収となりました。インダストリアル分野については、自動車市場において米国関税影響を見越した駆け込み需要もあり、PPSコンパウンドなどモビリティに関連した製品が底堅く推移しました。

### 【営業利益増減要因】

ケミトロニクス事業に関連した先行投資などによりコスト増となる中、エレクトロニクスやモビリティに関連した高付加価値製品の拡販が進んだことに加え、各製品において価格維持に努めたことにより、増益となりました。

# 連結財務諸表等

## 連結貸借対照表（要約）

2025年6月30日現在

(単位：億円)	
科 目	金 額
流動資産	6,070
有形固定資産	3,511
無形固定資産	616
投資その他の資産	1,851
<b>資産合計</b>	<b>12,048</b>
流動負債	3,358
固定負債	4,539
<b>負債合計</b>	<b>7,897</b>
株主資本	3,846
その他の包括利益累計額 (為替換算調整勘定)	115 (207)
非支配株主持分	190
<b>純資産合計</b>	<b>4,151</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>12,048</b>

## 連結損益計算書（要約）

2025年1月1日～2025年6月30日まで

(単位：億円)	
科 目	金 額
<b>売上高</b>	<b>5,232</b>
売上原価	△ 4,064
販売費及び一般管理費	△ 898
<b>営業利益</b>	<b>270</b>
金融収支	△ 18
持分法投資損益	9
為替差損益	△ 48
その他	△ 10
<b>経常利益</b>	<b>203</b>
特別利益	24
特別損失	△ 19
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>208</b>
法人税等	△ 74
中間純利益	134
非支配株主に帰属する中間純利益	△ 3
<b>親会社株主に帰属する中間純利益</b>	<b>131</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

2025年1月1日～2025年6月30日まで

(単位：億円)	
科 目	金 額
営業キャッシュ・フロー	215
投資キャッシュ・フロー	△ 155
フリーキャッシュ・フロー	60
財務キャッシュ・フロー	△ 38
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 67
現金及び現金同等物の増減額	△ 45
現金及び現金同等物の期首残高	609
現金及び現金同等物の期末残高	564



## 企業CM「AI DIC岡里帆」新シリーズを放送中

吉岡里帆さんを起用した企業CM「DIC岡里帆(ディーアイシーおか・りほ)」シリーズでは社会課題の解決に貢献する事業を取り上げ、人と地球の未来をより良いものにするため、持続的な豊かさを追い求める企業姿勢を伝えるよう心掛けています。今回のCMではDIC岡里帆がAIへと進化した「AI DIC岡里帆」が登場。スマートフォンや自動車、ロボットなど、あらゆる分野で活用が進む「AI」。そんなAIの進化には、半導体のさらなる技術革新が必要であり、そこではDICの革新的な「ケミトロンクス材料」の技術がその一翼を担っています。



### NewsPicksオリジナル番組 「サイレント・イノベーター」

私たちの身の回りで、表舞台に出ることなく確かな技術で社会を前進させている「陰の革新者」サイレント・イノベーター。ビジネスパーソンや就活生に人気の経済ニュースメディア「NewsPicks」制作によるオリジナル番組として当社社長や社員が出演する3話の動画と記事を当社ホームページにて公開しています。下記のQRコードよりぜひご覧ください。

<https://www.dic-global.com/ja/contents/column/>



QRコード ▶



# 「配当金領収証」を受け取り、郵便局等で配当金をお受け取りの株主様へ

## 口座振込による配当金受取のご案内

当社定款の規定により、配当金の除斥期間は3年と定められております。

配当金を確実にお受け取りいただくため、口座振込でのお受け取りをお薦めいたします。

### < メリット >

- 手間なし 受取の都度、郵便局等の窓口に行く必要がありません。
- 迅速 配当金は最短で支払開始日当日に口座に入金されます。
- もらい忘れなし 自動入金のため紛失やもらい忘れがありません。お忙しい方や長期の留守時にも安心です。

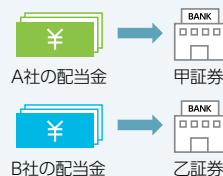
口座振込による配当金受取方法には次の①～③の方法がございます。

### 証券口座 で受領する

#### ① 株式数比例配分方式

お取引の証券会社の証券口座で  
配当金をお受け取りいただける方式です。

※ NISA口座の株式の配当金を非課税にするためには  
本方式を選択する必要があります。

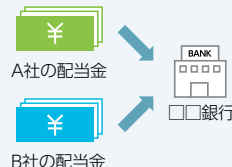


### 銀行口座 で受領する

#### ② 登録配当金受領口座方式

すべての銘柄の配当金を、あらかじめ  
ご指定いただいた1つの銀行等の口座で  
配当金をお受け取りいただける方式です。

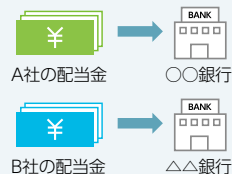
※ 一回のお申込みで、所有されているすべての銘柄の  
お手続きができます。



#### ③ 個別銘柄指定方式

銘柄ごとに銀行等の口座を指定し、  
配当金をお受け取りいただける方式です。

※ 銘柄ごとにお手続きが必要です。



特別口座を除き、お手続き・お問合わせは  
お取引のある証券会社へお問合せ下さい

**特別口座とは** 株券電子化実施時に株券を預託していなかった株主様の権利を保全するために、発行会社の申出により株主様名義で開設した暫定的な口座であり、この口座で株式を売買することはできません。

● 特別口座の方は下記フリーダイヤルにてご郵送、または三菱UFJ信託銀行本・支店でもお手続き可能です。(お届印が必要です)

※ お手続き場所についてご不明な場合は、下記フリーダイヤルまでお問合せください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-232-711 受付時間：平日9:00～17:00(土曜・日曜・祝日・銀行休業日を除きます)  
[郵送物送付先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

### < ご利用の留意点 >

■ お取引のある証券会社等が複数ある場合には、1社に対して①株式数比例配分方式または②登録配当金受領口座方式のお申し込みをされると、他の証券会社でお持ちの全ての株式における配当金受取方式が、同方式に自動的に変更されます。

■ 1銘柄でも保有株式の管理口座が特別口座になっている場合、①株式数比例配分方式は選択できません。

# 会社概要・株主メモ

## ■ 会社概要

— 2025年6月30日現在 —

商 号	DIC株式会社 DIC Corporation
本 店	〒174-8520 東京都板橋区坂下三丁目35番58号
本 社	〒103-8233 東京都中央区日本橋三丁目7番20号 ディーアイシービル 電話 03 (6733) 3000
創 業	明治41年2月15日(1908年)
設 立	昭和12年3月15日(1937年)
従 業 員 数	連結20,948名 <単体3,926名>
株 式 の 状 況	発行する株式の総数 150,000,000株 発行済株式の総数 95,156,904株 株 主 数 39,667名 1単元の株式の数 100株

## ■ 株主メモ

事 業 年 度	1月1日～12月31日
定 時 株 主 総 会	3月
期 末 配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	12月31日
中 間 配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	6月30日
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料) TEL 042-204-0303 (通話料有料) ※ 受付時間：土・日・祝日等を除く平日9:00～17:00

上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
公 告 の 方 法	電子公告 (ただし、電子公告によることが出来ない事故、 その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。) URL <a href="https://www.dic-global.com/">https://www.dic-global.com/</a>

### ■ 株式に関する『マイナンバー 制度』のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社などへマイナンバーをお届出いただく必要があります。

#### 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出します。

#### <主な支払調書>

- ・配当金に関する支払調書
- ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

#### マイナンバーのお届けに関するお問い合わせ先

- ・証券口座にて株式を管理されている株主様  
お取引の証券会社に問い合わせください。
- ・証券会社とのお取引がない株主様  
左記に記載の三菱UFJ信託銀行株式会社  
証券代行部にお問い合わせください。

## 【ご注意】

1. 住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社など）にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記の特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

本冊子のデザインはユニバーサルデザインフォントを使用し、  
印刷には VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの環境にやさしい  
DIC グラフィックス株式会社の100%植物油型インキ『**ナチュラリス100**』を使用しています。



# Color & Comfort

株主・投資家情報



<https://www.dic-global.com/ja/ir/>